置換の完了

- バックアップの作成，1 ページ
- ライセンス ファイルの入手，5 ページ
- NTP ステータスの確認，6 ページ
- パブリッシャ サーバへのソフトウェアのインストール，6 ページ
- サブスクライバ サーバへのソフトウェアのインストール，9 ページ
- ライセンス ファイルのアップロード，13 ページ
- バックアップ ファイルの復元，14 ページ
- 完全置換，16 ページ

バックアップの作成

以降の項で、アップグレードの前にバックアップをセットアップして実行する方法について説明します。詳細については、『*Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

サーバを回復または置換する場合は、バックアップの作成に関するこの項を飛ばして、使用可能な最新のバックアップからサーバを復元できます。

関連トピック

パブリッシャ ノードの置換
サブスクライバまたは専用の TFTP サーバの置換

サポートされている機能およびコンポーネント

次の表に示す機能とサブコンポーネントをバックアップおよび復元できます。選択した機能ごとに、そのすべてのサブコンポーネントが自動的にバックアップされます。

表 *1* : サポートされている機能およびコンポーネント

機能	コンポーネント
CCM - Cisco Unified Communications Manager	Cisco Unified Communications Manager データベース（CMDB）
	プラットフォーム
	Cisco Unified Serviceability
	保留音（MOH）
	Cisco Emergency Responder（CER）
	一括ツール（BAT）
	設定
	電話デバイス ファイル（TFTP）
	syslogagt（SNMP syslog エージェント）
	cdpagent（SNMP cdp エージェント）
	tct（トレース収集ツール）
	呼詳細レコード（CDR）
	CDR 分析とレポート（CAR）

バックアップの機能の設定

バックアップ ジョブをスケジュール設定または開始する前に、バックアップする機能を設定する必要があります。

（注） バックアップ機能を変更すると、手動バックアップとスケジュールバックアップの両方のバックアップ機能が変更されます。

バックアップする機能を選択するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ディザスタ リカバリ システムに移動します。Cisco Unified CM の管理にログインし、[Cisco Unified CMの管理（Cisco Unified Communications Manager Administration）] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション（Navigation）] メニューから [ディザスタリカバリシステム（Disaster Recovery System）] を選択し、[移動（Go）] をクリックします。
[ディザスタリカバリシステムのログイン（Disaster Recovery System Logon）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理に使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、ディザスタ リカバリ システムにログインします。

ステップ 3 [バックアップ（Backup）] > [機能の設定（Configure Features）] に移動します。

ステップ 4 使用可能な機能の一覧から、バックアップに含める機能を 1 つ以上選択し、[保存（Save）] をクリックします。少なくとも 1 つの機能を選択する必要があります。

ステップ 5 次の手順に進んで、保存先を設定します。

保存場所の設定

ディザスタ リカバリ システムを使用する場合は事前に、バックアップ ファイルの保存先を設定する必要があります。保存先を設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ディザスタ リカバリ システムに移動します。Cisco Unified CM の管理にログインし、[Cisco Unified CMの管理（Cisco Unified Communications Manager Administration）] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション（Navigation）] メニューから [ディザスタリカバリシステム（Disaster Recovery System）] を選択し、[移動（Go）] をクリックします。
[ディザスタリカバリシステムのログイン（Disaster Recovery System Logon）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理に使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、ディザスタ リカバリ システムにログインします。

ステップ 3 [バックアップ（Backup）]>[保存先（Storage Location）] に移動します。[保存先（Storage Location）] ウィンドウが表示されます。

（注） ネットワーク ディレクトリに保管するバックアップ セットの数を設定できます。

ステップ 4 [ネットワークディレクトリ（Network Directory）] オプションを選択して、SFTP 接続を通じてアクセスできるネットワーク ドライブにバックアップ データを保存します。

ステップ 5 次の必須情報を入力します。

- [サーバ名（Server name）]：ネットワーク サーバの名前または IP アドレス

- [パス名（Path name）]：バックアップ ファイルを格納するディレクトリのパス名
- [ユーザ名（User name）]：リモート システム上のアカウントの有効なユーザ名
- [パスワード（Password）]：リモート システム上のアカウントの有効なパスワード

（注） ネットワーク上に保存先を設定するには、SFTP サーバにアクセスする必要があります。バックアップに先立って SFTP パスが存在する必要があります。SFTP サーバへのアクセスに使用するアカウントに、選択したパスに対する書き込み権限があることを確認します。

ステップ 6 これらの設定を更新するには、[保存（Save）] をクリックします。

（注） ネットワーク ディレクトリへのバックアップを選択した場合、[保存（Save）] ボタンをクリックすると DRS Master Agent によって選択した SFTP サーバが検証されます。ユーザ名、パスワード、サーバ名、またはディレクトリ パスが無効であると、保存操作は失敗します。

ステップ 7 手動バックアップまたはスケジュール バックアップに進みます。

バックアップの開始

[機能の設定（Configure Features）] メニューで選択した機能のバックアップを手動で開始できます。手動バックアップを開始するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ディザスタ リカバリ システムに移動します。Cisco Unified CM の管理にログインし、[Cisco Unified CMの管理（Cisco Unified Communications Manager Administration）] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション（Navigation）] メニューから [ディザスタリカバリシステム（Disaster Recovery System）] を選択し、[移動（Go）] をクリックします。
[ディザスタリカバリシステムのログイン（Disaster Recovery System Logon）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理に使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、ディザスタ リカバリ システムにログインします。

ステップ 3 [バックアップ（Backup）] > [手動バックアップ（Manual Backup）] に移動します。[手動バックアップ（Manual Backup）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 バックアップする機能が選択されていることを確認します。他の機能を選択するには、バックアップの機能の設定，（2 ページ）を参照してください。

（注） クラスタ内のすべてのサーバが、同じバージョンの Cisco Unified Communications Manager を実行し、ネットワーク経由で到達可能であることを確認してください。スケジュール バックアップの時刻に動作していないサーバはバックアップされません。

ステップ 5 手動バックアップを開始するには、[バックアップの開始（Start Backup）] をクリックします。

ステップ 6 バックアップ保存先がすでに設定されていることを確認します。保存場所の設定, （3 ページ）を参照してください。

バックアップ ステータスの確認

現在のバックアップ ジョブのステータスを確認するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ディザスタ リカバリ システムに移動します。Cisco Unified CM の管理にログインし、[Cisco Unified CMの管理（Cisco Unified Communications Manager Administration）] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション（Navigation）] メニューから [ディザスタリカバリシステム（Disaster Recovery System）] を選択し、[移動（Go）] をクリックします。
[ディザスタリカバリシステムのログイン（Disaster Recovery System Logon）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理に使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、ディザスタ リカバリ システムにログインします。

ステップ 3 [バックアップ（Backup）] > [現在のステータス（Current Status）] に移動します。[バックアップ ステータス（Backup Status）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 バックアップ ログ ファイルを表示するには、ログファイル名リンクをクリックします。

ステップ 5 現在のバックアップをキャンセルするには、[バックアップのキャンセル（Cancel Backup）] をクリックします。

（注） 現在のコンポーネントがバックアップ操作を完了した後、バックアップがキャンセルされます。

ライセンス ファイルの入手

Cisco Unified Communications Manager クラスタ内の最初のノードを置換する場合は、ライセンス チームに連絡して置換サーバ用のライセンスを取得する必要があります。ライセンス チーム（licensing@cisco.com）までお問い合わせください。新しいライセンス ファイルを受け取ったら、ソフトウェア ライセンス ファイルをアップロードします。

（注） 最初のノードのマザーボードを交換する場合も新しいライセンス ファイルが必要です。

関連トピック

ライセンス ファイルのアップロード, （13 ページ）
パブリッシャ ノードの置換

NTP ステータスの確認

NTP サーバからシステム時刻を取得している場合は、サブスクライバ ノードをインストールする前に、パブリッシャ ノードが NTP サーバと同期できることを確認します。

最初のノードの NTP ステータスを確認するには、パブリッシャ ノードでコマンドライン インターフェイスにログインし、次のコマンドを入力します。

utils ntp status

詳細については、『*Cisco Unified Communications Command Line Interface Guide*』を参照してください。

注意 最初のノードが NTP サーバと同期できない場合は、後続ノードのインストールが失敗することがあります。

パブリッシャ サーバへのソフトウェアのインストール

新しいパブリッシャ サーバに Cisco Unified Communications Manager をインストールするには、次の手順を実行します。この製品のインストールの詳細については、『*Installing Cisco Unified Communications Manager*』のドキュメントを参照してください。

手順

ステップ 1 インストール DVD をトレイにセットし、DVD から起動するようにサーバを再起動します。サーバの起動処理が完了すると、[DVD が見つかりました（DVD Found）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 メディア チェックを実行する場合は、[はい（Yes）] を選択します。メディア チェックをスキップする場合は、[いいえ（No）] を選択します。
メディア チェックでは、DVD の完全性がチェックされます。以前にメディア チェックをパスした DVD の場合は、メディア チェックのスキップを選択できます。

ステップ 3 メディア チェックを実行するために [はい（Yes）] を選択した場合は、システム インストーラによってメディア チェックが実行され、[メディア チェックの結果（Media Check Result）] ウィンドウが表示されます。次のタスクを実行します。

a) [メディア チェックの結果（Media Check Result）] で [パス（Pass）] と表示された場合は、[OK] を選択してインストールを続行します。

b) メディアチェックでメディアの障害が検出された場合は、ソフトウェアの別のコピーをCisco.comからダウンロードするか、シスコから別のディスクを直接入手してください。

ステップ 4 [製品展開の選択（Product Deployment Selection）] ウィンドウで、[Cisco Unified Communications Manager] を選択し、[OK] を選択します。

ステップ 5 サーバに現在ソフトウェアがインストールされている場合は、[ハードドライブの上書き（Overwrite Hard Drive）] ウィンドウが開き、ハードドライブに現在あるソフトウェアのバージョンと、DVDにあるバージョンが表示されます。インストールを続ける場合は [はい（Yes）] を、中止する場合は [いいえ（No）] を選択します。

注意 [ハードドライブを上書きする（Overwrite Hard Drive）] ウィンドウで [はい（Yes）] を選択すると、ハードドライブ上の既存のすべてのデータが上書きされ、失われます。

ステップ 6 [プラットフォーム インストレーション ウィザード（Platform Installation Wizard）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 今すぐプラットフォームを設定するには、[続行（Proceed）] を選択します。

ステップ 8 [基本インストール（Basic Install）] ウィンドウで、DVDに収録されているソフトウェア バージョンをインストールするため [続行（Continue）] を選択します。

ステップ 9 [タイムゾーン設定（Timezone Configuration）] が表示されたら、サーバの適切なタイム ゾーンを選択して、[OK] を選択します。
[自動ネゴシエーション設定（Auto Negotiation Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 10 インストール処理では、自動ネゴシエーションを使って、イーサネットのネットワーク インターフェイス カード（NIC）の速度と二重化設定を自動的に設定できます。この設定はインストール後に変更できます。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、[はい（Yes）] を選択します。

  [MTU 設定（MTU Configuration）] ウィンドウが表示されます。

  （注） このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、[いいえ（No）]を選択して次の手順に進みます。

  [NIC の速度および二重化の設定（NIC Speed and Duplex Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度および二重設定を手動で選択し、[OK] を選択して続行します。
[MTU 設定（MTU Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 12 [MTU 設定（MTU Configuration）] ウィンドウでは、MTU サイズをオペレーティング システムのデフォルトから変更できます。
MTU（Maximum Transmission Unit）は、このホストがネットワークで転送する最大パケットをバイト単位で表します。ネットワークの MTU 設定が不明の場合は、デフォルト値（1500 バイト）を使用してください。

注意 MTU サイズを正しく設定しないと、ネットワーク パフォーマンスに影響する場合があります。

- デフォルト値（1500 バイト）を使用する場合は、[いいえ（No）] を選択します。
- MTU サイズをオペレーティング システムのデフォルトから変更する場合は [はい（Yes）] を選択し、新しい MTU サイズを入力して [OK] を選択します。

[DHCP 設定（DHCP Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 13 ネットワーク設定では、ノードの静的 IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol（DHCP）を使用するかを選択できます。

- ネットワーク内に設定されている DHCP サーバがない場合に DHCP を使用するときは、[はい（Yes）] を選択します。

  [管理者のログイン設定（Administrator Login Configuration）] ウィンドウが表示されます。
- ノードの静的 IP アドレスを設定する場合は、[いいえ（No）] を選択して次の手順に進みます。

  静的ネットワーク設定のウィンドウが表示されます。

ステップ 14 DHCP を使用しないことを選択している場合は、静的ネットワーク設定の値を入力して [OK] を選択します。フィールドの説明については、ネットワーク構成時の設定の記録を参照してください。
[DNS クライアント設定（DNS Client Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 15 DNS を有効にするには [はい（Yes）] を選択し、DNS クライアントの情報を入力して [OK] を選択します。フィールドの説明については、ネットワーク構成時の設定の記録を参照してください。
[管理者のログイン設定（Administrator Login Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 16 アカウント名とパスワードの記録 を参照して、管理者ログインとパスワードを入力します。
[証明書の署名要求情報（Certificate Signing Request Information）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 17 証明書署名要求情報を入力して、[OK] を選択します。
最初のノードの設定ウィンドウが表示されます。

ステップ 18 このサーバを、最初の Cisco Unified Communications Manager ノードとして設定するには、[はい（Yes）] を選択します。
[ネットワーク タイム プロトコル クライアント設定（Network Time Protocol Client Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 19 外部 NTP サーバを設定するか、システム時刻を手動で設定するかを選択します。

（注） 最初のノードのシステムの時刻を正確にするために、外部 NTP サーバを使用することを推奨します。外部 NTP サーバは Stratum 9 以上（つまり Stratum 1 ～ 9）であるようにします。クラスタの後続ノードは、最初のノードから時刻を取得します。

- 外部 NTP サーバを設定するには [はい（Yes）] を選択し、1 つ以上の NTP サーバの IP アドレス、NTP サーバ名、または NTP サーバ プール名を入力します。NTP サーバは最大 5 つ設定でき、3 つ以上使用することを推奨します。[続行（Proceed）] を選択してインストールを続けます。

  システムは NTP サーバに接続して、自動的にハードウェア クロックの時刻を設定します。

（注） ネットワークの設定情報をすでに入力し、システムをリブートした場合は（スキップ インストール）、[テスト（Test）] ボタンが表示されます。[テスト（Test）] を選択すると、NTP サーバにアクセスできるかどうかを確認できます。

- システム時刻を手動で設定するには [いいえ（No）] を選択し、適切な日時を入力してハードウェア クロックを設定します。[OK] を選択してインストールを続けます。

[データベース アクセス セキュリティ設定（Database Access Security Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 20 アカウント名とパスワードの記録 を参照して、Database Access Security パスワードを入力します。
[SMTP ホスト設定（SMTP Host Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 21 SMTP サーバを設定する場合、[はい（Yes）] を選択して SMTP サーバ名を入力します。

（注） 特定のプラットフォーム機能を使用するように SMTP サーバを設定する必要があります。ただし、オペレーティング システムの GUI またはコマンドライン インターフェイスを使用して、後で SMTP サーバを設定することもできます。

ステップ 22 [OK] を選択します。
[プラットフォーム設定確認（Platform Configuration Confirmation）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 23 インストールを続けるには、[OK] を選択します。
[アプリケーション ユーザ パスワード設定（Application User Password Configuration）] ウィンドウが表示されます。

（注） これまでに入力した項目のいずれかを変更する場合は、[戻る（Back）]を選択し、変更を加えてからインストールを続けます。

ステップ 24 アカウント名とパスワードの記録 のアプリケーション ユーザ パスワードを入力し、パスワードをもう一度入力して確認します。

ステップ 25 [OK] を選択します。
システムによって、ソフトウェアのインストールと設定が行われます。DVD ドライブがイジェクトされ、サーバが再起動します。DVD を再挿入しないでください。

ステップ 26 インストール処理が完了すると、管理者アカウントとパスワードを使用してログインするよう求められます。

ステップ 27 パブリッシャ ノードの置換に一覧表示された残りのタスクを実行します。

サブスクライバサーバへのソフトウェアのインストール

新しいサブスクライバ サーバに Cisco Unified Communications Manager をインストールするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 パブリッシャ ノードでネットワーク タイムプロトコル（NTP）を設定した場合は、サブスクライバ ノードをインストールする前に、パブリッシャ ノードが NTP サーバと同期していることを確認します。パブリッシャ ノードのコマンドライン インターフェイスから、**utils ntp status** コマンドを入力します。パブリッシャ ノードがNTPサーバと同期されていることを出力で確認します。

（注） 最初のノードが NTP サーバと同期されていないと、後続ノードのインストールは失敗します。

ステップ 2 インストール DVD をトレイにセットし、DVD から起動するようにサーバを再起動します。サーバの起動処理が完了すると、[DVD が見つかりました（DVD Found）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 メディア チェックを実行する場合は、[はい（Yes）] を選択します。メディア チェックをスキップする場合は、[いいえ（No）] を選択します。
メディア チェックでは、DVD の完全性がチェックされます。以前にその DVD がメディア チェックに合格した場合は、メディア チェックをスキップしてもかまいません。

ステップ 4 メディア チェックを実行するために [はい（Yes）] を選択した場合は、システム インストーラによってメディア チェックが実行され、[メディア チェックの結果（Media Check Result）] ウィンドウが表示されます。次のタスクを実行します。

a) [メディア チェックの結果（Media Check Result）] で [パス（Pass）] と表示された場合は、[OK] を選択してインストールを続行します。
b) メディアチェックでメディアの障害が検出された場合は、ソフトウェアの別のコピーをCisco.comからダウンロードするか、シスコから別のディスクを直接入手してください。

ステップ 5 [製品展開の選択（Product Deployment Selection）] ウィンドウで、[Cisco Unified Communications Manager] を選択し、[OK] を選択します。

ステップ 6 サーバに現在ソフトウェアがインストールされている場合は、[ハード ドライブの上書き（Overwrite Hard Drive）] ウィンドウが開き、ハード ドライブに現在あるソフトウェアのバージョンと、DVD にあるバージョンが表示されます。インストールを続ける場合は [はい（Yes）]、中止する場合は [いいえ（No）] を選択します。

注意 [ハードドライブの上書き（Overwrite Hard Drive）] ウィンドウで [はい（Yes）] を選択すると、ハード ドライブにある既存のデータはすべて上書きされて消去されます。

ステップ 7 [プラットフォーム インストレーション ウィザード（Platform Installation Wizard）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 今すぐプラットフォームを設定するには、[続行（Proceed）] を選択します。

ステップ 9 [基本インストール（Basic Install）] ウィンドウで、DVD に収録されているソフトウェア バージョンをインストールするため [続行（Continue）] を選択します。

ステップ 10 [タイムゾーン設定（Timezone Configuration）] が表示されたら、サーバの適切なタイム ゾーンを選択して、[OK] を選択します。
[自動ネゴシエーション設定（Auto Negotiation Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 インストール処理では、自動ネゴシエーションを使って、イーサネットのネットワーク インターフェイス カード（NIC）の速度と二重化設定を自動的に設定できます。この設定はインストール後に変更できます。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには、[はい（Yes）] を選択します。

  [MTU 設定（MTU Configuration）] ウィンドウが表示されます。

  （注） このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしていることを確認します。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには、[いいえ（No）] を選択して次の手順に進みます。

  [NIC の速度および二重化の設定（NIC Speed and Duplex Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 12 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度および二重設定を手動で選択し、[OK] を選択して続行します。
[MTU 設定（MTU Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 13 [MTU 設定（MTU Configuration）] ウィンドウでは、MTU サイズをオペレーティング システムのデフォルトから変更できます。
MTU（Maximum Transmission Unit）は、このホストがネットワークで転送する最大パケットをバイト単位で表します。ネットワークの MTU 設定が不明の場合は、デフォルト値（1500 バイト）を使用してください。

注意 MTU サイズを正しく設定しないと、ネットワーク パフォーマンスに影響する場合があります。

- デフォルト値（1500 バイト）を使用する場合は、[いいえ（No）] を選択します。
- MTU サイズをオペレーティング システムのデフォルトから変更する場合は [はい（Yes）] を選択し、新しい MTU サイズを入力して [OK] を選択します。

[DHCP 設定（DHCP Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 14 ネットワーク設定では、ノードの静的 IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol（DHCP）を使用するかを選択できます。

- ネットワーク内に設定されている DHCP サーバがない場合に DHCP を使用するときは、[はい（Yes）] を選択します。

  [管理者のログイン設定（Administrator Login Configuration）] ウィンドウが表示されます。

- ノードの静的 IP アドレスを設定する場合は、[いいえ（No）] を選択して次の手順に進みます。

  静的ネットワーク設定のウィンドウが表示されます。

ステップ 15 DHCP を使用しないことを選択している場合は、静的ネットワーク設定の値を入力して [OK] を選択します。フィールドの説明については、ネットワーク構成時の設定の記録を参照してください。
[DNS クライアント設定（DNS Client Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 16 DNS を有効にするには [はい（Yes）] を選択し、DNS クライアントの情報を入力して [OK] を選択します。フィールドの説明については、ネットワーク構成時の設定の記録を参照してください。
[管理者のログイン設定（Administrator Login Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 17 アカウント名とパスワードの記録 を参照して、管理者ログインとパスワードを入力します。
[証明書の署名要求情報（Certificate Signing Request Information）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 18 証明書署名要求情報を入力して、[OK] を選択します。
最初のノードの設定ウィンドウが表示されます。

ステップ 19 [いいえ（No）] を選択して、このサーバをクラスタの後続ノードとして設定します。
最初のノードの設定ウィンドウが表示されます。

注意 後続ノードをインストールする前に、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して最初のノードで後続ノードを設定する必要があります。詳細については、『*System Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』を参照してください。

ステップ 20 [最初のノードの設定（First Node Configuration）] ウィンドウで警告を読み、最初のノードが正しく設定されていることを確認します。後続ノードのインストールを続けるには、[OK] を選択します。
[ネットワーク接続テスト設定（Network Connectivity Test Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 21 後続ノードのインストール中に、後続ノードが最初のノードに接続できるかどうかが確認されます。

- システムによるネットワーク接続の検証が正常に行われた後、インストールを一時停止する場合は、[はい（Yes）] を選択します。
- 一時停止したインストールを続ける場合は、[いいえ（No）] を選択します。

[最初のノードのアクセス設定（First Node Access Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 22 このサブスクライバノードがサブスクライバノードに接続できるようにするため、最初のノードの接続情報を入力します。
システムによるネットワーク接続の検証が成功した後にシステムを一時停止することを選択した場合は、[最初のノードへの接続に成功しました（Successful Connection to First Node）] ウィンドウが表示されます。[続行（Continue）] を選択します。

（注） ネットワーク接続テストが失敗するとシステムは必ず停止し、元に戻ってパラメータ情報を再入力できます。

[SMTP ホスト設定（SMTP Host Configuration）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 23 SMTP サーバを設定する場合、[はい（Yes）] を選択して SMTP サーバ名を入力します。

（注） 特定のオペレーティング システム機能を使用するように SMTP サーバを設定する必要があります。ただし、オペレーティング システムの GUI またはコマンドライン インターフェイスを使用して、後で SMTP サーバを設定することもできます。

[プラットフォーム設定確認（Platform Configuration Confirmation）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 24 ソフトウェアのインストールを開始する場合は、[OK] を選択します。設定を変更する場合は、[戻る（Back）] を選択します。

ステップ 25 インストール処理が完了すると、管理者アカウントとパスワードを使用してログインするよう求められます。

ステップ 26 サブスクライバまたは専用の TFTP サーバの置換に示す残りのタスクを実行します。

ライセンス ファイルのアップロード

次の手順を実行して、ライセンスファイルの申請時に入力したMACアドレスを持つCisco Unified Communications Manager サーバに、ライセンス ファイルをアップロードします。ライセンス ファイルの入手方法については、ライセンス ファイルの入手, （5 ページ） を参照してください。ライセンス ファイルがロードされた Cisco Unified Communications Manager サーバは、License Manager の機能を果たします。

（注） ライセンス ファイルは、Cisco Unified Communications Manager クラスタの最初のノードにだけアップロードします。

手順

ステップ 1 [システム（System）] > [ライセンス（License）] > [ライセンスファイルのアップロード（Upload License File）] を選択します。
[ライセンス ファイルのアップロード（License File Upload）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 サーバにアップロード済みのライセンス ファイルが、[既存ライセンス ファイル（Existing License Files）] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。
（注） 既存ファイルの内容を表示するには、ドロップダウン リスト ボックスからファイルを選択して、[ファイルの表示（View File）] をクリックします。

ステップ 3 アップロードする新しいライセンス ファイルを選択するために、[ライセンス ファイルのアップロード（Upload License File）] をクリックします。
[ファイルのアップロード（Upload File）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 サーバにアップロードするライセンス ファイルを参照して選択します。
（注） 受信するライセンス ファイルの形式によって、CCM<timestamp>.lic が指定されます。ライセンス ファイルの名前は、.lic 拡張子以外を変更できます。ファイルの内容を編集すると、ライセンスは使用できなくなります。

ステップ 5 [ライセンス ファイルのアップロード（Upload License File）] をクリックします。
アップロードプロセスの完了後、[アップロード結果（Upload Result）] ファイルが表示されます。

ステップ 6 [閉じる（Close）] をクリックします。

ステップ 7 [ライセンス ファイルのアップロード（License File Upload）] ウィンドウに、アップロードしたファイルのステータスが表示されます。

（注） ライセンス ファイルは、ファイル中で指定されたバージョンがクラスタで実行されている Cisco Unified Communications Manager のバージョン以上である場合のみ、データベースにアップロードされます。バージョン チェックに失敗した場合はアラームが発生します。正しいバージョンのライセンス ファイルを新たに取得する必要があります。バージョン チェックは、メジャー リリースにのみ基づいて行われます。

ステップ 8 Cisco CallManager サービスを再起動します。サービスの再起動の詳細については、『*Administration Guide for Cisco Unity Connection Serviceability*』を参照してください。

関連トピック

パブリッシャ ノードの置換

バックアップ ファイルの復元

復元ウィザードに従うと、バックアップ ファイルを復元するために必要な手順を実行できます。復元を実行するには、次の手順を使用します。

注意 Cisco Unified Communications Manager を復元する前に、サーバにインストールされている Cisco Unified Communications Manager のバージョンが、復元するバックアップ ファイルのバージョンに一致することを確認します。

手順

ステップ 1 ディザスタ リカバリ システムに移動します。Cisco Unified CM の管理にログインし、[Cisco Unified CMの管理（Cisco Unified Communications Manager Administration）] ウィンドウの右上隅にある [ナビゲーション（Navigation）] メニューから [ディザスタリカバリシステム（Disaster Recovery System）] を選択し、[移動（Go）] をクリックします。
[ディザスタリカバリシステムのログイン（Disaster Recovery System Logon）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理に使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、ディザスタ リカバリ システムにログインします。

ステップ 3 [復元（Restore）] > [復元ウィザード（Restore Wizard）] に移動します。[復元ウィザード ステップ 1（Restore Wizard Step 1）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 ファイルの復元元となる [ネットワークディレクトリ（Network Directory）] 保存場所を選択し、選択した保存場所に関する次の必須情報を入力します。

- [サーバ名（Server name）]：ネットワーク サーバの名前または IP アドレス

- [パス名（Path name）]：バックアップ データの復元元ディレクトリのパス名
- [ユーザ名（User name）]：リモート システム上の SFTP アカウントの有効なユーザ名
- [パスワード（Password）]：リモート システム上の SFTP アカウントの有効なパスワード

ステップ 5 [次へ（Next）] をクリックします。[復元ウィザード ステップ 2（Restore Wizard Step 2）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 復元するバックアップ ファイルを選択します。

（注） バックアップ ファイル名から、バックアップ ファイルが作成された日付と時刻がわかります。

ステップ 7 [次へ（Next）] をクリックします。[復元ウィザード ステップ 3（Restore Wizard Step 3）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 復元する機能を選択します。

（注） 選択したファイルにバックアップされた機能だけが表示されます。

ステップ 9 [次へ（Next）] をクリックします。[復元ウィザード ステップ 4（Restore Wizard Step 4）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 10 データの復元を開始するには、[復元（Restore）] をクリックします。
復元するノードを選択するよう求めるプロンプトが表示されます。

ステップ 11 適切なノードを選択します。

注意 データを復元するノードを選択すると、そのサーバ上の既存のデータが上書きされます。

ステップ 12 選択したノードにデータが復元されます。

（注） 復元するデータベースとコンポーネントのサイズによっては、復元が完了するまでに 1 時間以上かかることがあります。

関連トピック

パブリッシャ ノードの置換
サブスクライバまたは専用の TFTP サーバの置換
復元ステータスの表示, （15 ページ）

復元ステータスの表示

現在の復元ジョブのステータスを確認するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ディザスタ リカバリ システムに移動します。Cisco Unified CM の管理にログインし、[Cisco Unified CMの管理（Cisco Unified Communications Manager Administration）] ウィンドウの右上隅にある [ナ

ビゲーション（Navigation）] メニューから [ディザスタリカバリシステム（Disaster Recovery System）] を選択し、[移動（Go）] をクリックします。
[ディザスタリカバリシステムのログイン（Disaster Recovery System Logon）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理に使用するものと同じ管理者ユーザ名とパスワードを使用して、ディザスタ リカバリ システムにログインします。

ステップ 3 [復元（Restore）]>[ステータス（Status）] に移動します。[復元ステータス（Restore Status）] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 復元ログ ファイルを表示するには、ログファイル名リンクをクリックします。

完全置換

クラスタ置換を完了した後、次のタスクを実行します。

手順

ステップ 1 サーバまたはクラスタがセキュアモードで動作している場合は、新しいCTLファイルを作成してすべてのクラスタ ノードに配布します。この手順は、置換または再インストールを予定していたすべてのサーバの置換または再インストールが完了した後に行います。
これらのタスクの実行および Cisco Unified Communications Manager のセキュリティについては、『*Cisco Unified Communications Manager Security Guide*』を参照してください。

注意 新しい CTL ファイルを作成して配布する必要があります。そうしないと、セキュア電話機が置換後の Cisco Unified Communications Manager サーバに登録できず、機能しません。

ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool（RTMT）を使用して、すべての登録情報の値がサーバの置換前に記録した値と一致することを確認します。

ステップ 3 Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool（RTMT）を使用して、すべての重要なサービスとそのステータスが、サーバの置換前に記録したものと一致することを確認します。

ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool（RTMT）の Syslog ビューアを使用して、重大度が [エラー（Error）] 以上のイベントがないかどうかを確認します。この作業を実行して、システムに影響を及ぼすエラーがシステム上で発生していないことを確認します。

ステップ 5 Cisco Unified Communications Manager Real Time Monitoring Tool（RTMT）の Syslog ビューアを使用して、すべてのノードの [作成した複製の数と状態（Number of Replicates Created and State of Replication）] オブジェクトの Replicate_State カウンタを確認します。各ノードの値は 2 になっているはずです。
このカウンタは、レプリケーションの状態を表し、次のいずれかの値になります。

- 0：初期化しています。サーバが定義されていない場合、またはサーバが定義されているが、テンプレートの実現が完了していない場合、このカウンタは 0 になります。

- 1：システムが、すべてのテーブルではなく一部のテーブルの複製を作成しました。CLI で **utils dbreplication status** を実行し、障害の発生場所と発生原因を特定することを推奨します。
- 2：適切なレプリケーション。
- 3：不適切なレプリケーション。カウンタに 3 と表示される場合は、クラスタにおけるレプリケーションが不良であると考えてください。特定のノードでレプリケーションが失敗したという意味ではありません。CLI で **utils dbreplication status** を実行し、障害の発生場所と発生原因を特定することを推奨します。
- 4：レプリケーションのセットアップに成功しませんでした。

ステップ 6 該当するオブジェクトおよびカウンタにアクセスするには、次の手順を実行します。

a) 次のいずれかの作業を実行します。
   - [クイック起動チャネル（Quick Launch Channel）] で、[システム（System）] > [パフォーマンス（Performance）] をクリックしてから、[パフォーマンス（Performance）] アイコンをクリックします。
   - [パフォーマンス（Performance）]>[パフォーマンスモニタリングを開く（Open Performance Monitoring）] を選択します。

b) 監視するカウンタを追加するサーバの名前をダブルクリックします。
c) [作成した複製の数と状態（Number of Replicates Created and State of Replication）] オブジェクトをダブルクリックします。
d) [複製の状態（Replicate_State）] カウンタをダブルクリックします。
e) [複製カウント（ReplicateCount）] インスタンスを選択し、[追加（Add）] をクリックします。

ステップ 7 Cisco Unified CM の管理から、データベースに設定されている電話機、ゲートウェイ、トランク、ユーザ、およびルート パターンの数が、サーバの置換前に記録した数と一致することを確認します。

ステップ 8 Cisco Unified CM の管理の [ファームウェアロード情報（Firmware Load Information）] ウィンドウで、電話ロード タイプの値が、サーバの置換前に記録した値と一致することを確認します。

ステップ 9 Cisco Unified Communications Manager に付属していないカスタム デバイス タイプについては、COP ファイル イネーブラを再インストールします。その後、クラスタをリブートし、置換後のチェックリストにある作業を再開します。

ステップ 10 サーバにインストールされていたロケールを再インストールします。

ステップ 11 Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理を使用してクラスタ内の各ノードのシステム バージョンを比較し、置換前に記録したバージョンと一致することを確認します。

ステップ 12 必要に応じて、CDR の送信先を再設定します。

ステップ 13 すべての Trace and Log Central ジョブを再設定します。

ステップ 14 置換前に実行したすべてのシステムテストを実行し、すべてのテストコールが成功することを確認します。

ステップ 15 必要に応じて、DRS の場所とスケジュールを再設定します。

関連トピック

- システムの設定項目数の記録
- 登録数の確認
- 重要なサービスの記録
- システム エラーの検索
- ファームウェア情報の記録
- システム バージョンの記録
- CDR 管理設定の記録
- トレース ログのジョブ詳細の記録
- バックアップの作成, （1 ページ）